

# 宿題 1

線形モデル

$$f_{\boldsymbol{\theta}}(\mathbf{x}) = \boldsymbol{\theta}^T \mathbf{x} + \theta_0 \quad (1)$$

に対し、クラス比重み付き最小二乗法を実装する。

クラス比の推定値は、

$$\tilde{\pi} = \frac{\hat{A}_{+1,-1} - \hat{A}_{-1,-1} - \hat{b}_{+1} + \hat{b}_{-1}}{2\hat{A}_{+1,-1} - \hat{A}_{+1,+1} - \hat{A}_{-1,-1}} \quad (2)$$

$$\hat{\pi} = \min(1, \max(0, \tilde{\pi})) \quad (3)$$

ここで、

$$\hat{A}_{y, \tilde{y}} = \frac{1}{n_y n_{\tilde{y}}} \sum_{i: y_i = y} \sum_{\tilde{i}: y_{\tilde{i}} = \tilde{y}} \|\mathbf{x}_i - \mathbf{x}_{\tilde{i}}\| \quad (4)$$

$$\hat{b}_y = \frac{1}{n' n_y} \sum_{i'=1}^{n'} \sum_{i: y_i = y} \|\mathbf{x}_{i'} - \mathbf{x}_i\| \quad (5)$$

である。

いま、

$$\pi_i = \frac{p_{\text{test}}(y_i)}{p_{\text{train}}(y_i)} = \begin{cases} \hat{\pi} & (y = +1) \\ 1 - \hat{\pi} & (y = -1) \end{cases} \quad (6)$$

$$\Pi = \text{diag}(\pi_1, \dots, \pi_n) \quad (7)$$

とし、また、

$$\Phi = \begin{bmatrix} 1 & x_{1,0} & x_{1,1} \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ 1 & x_{n,0} & x_{n,1} \end{bmatrix} \quad (8)$$

$$\Theta = (\theta_0, \boldsymbol{\theta}^T)^T \quad (9)$$

とすると、目的関数は、

$$J(\Theta) = \sum_{i=1}^n \frac{p_{\text{test}}(y_i)}{p_{\text{train}}(y_i)} (f_{\boldsymbol{\theta}}(\mathbf{x}_i) - y_i)^2 \quad (10)$$

$$= (\Theta \Phi - \mathbf{y})^T \Pi (\Theta \Phi - \mathbf{y}) \quad (11)$$

となり、この  $\Theta$  による偏微分が  $\mathbf{0}$  となることから、

$$\frac{\partial J}{\partial \Theta} = 2\Phi^T \Pi \Phi \Theta - 2\mathbf{y}^T \Phi^T \Pi \Theta = \mathbf{0} \quad (12)$$

$$\hat{\Theta} = (\Phi^T \Pi \Phi)^{-1} \Phi^T \Pi \mathbf{y} \quad (13)$$

を得る。

これを実装すると??ページの Listing ??のようになる。重み付きの結果は，訓練データに対するものを図 1 に，テストデータに対するものを図 2 に示した。また，重み付けなしについても実験を行い，その結果は，訓練データに対するものを図 3 に，テストデータに対するものを図 4 に示した。図を見ると，重み付けありの方が汎化性能が高くなっていることがわかる。

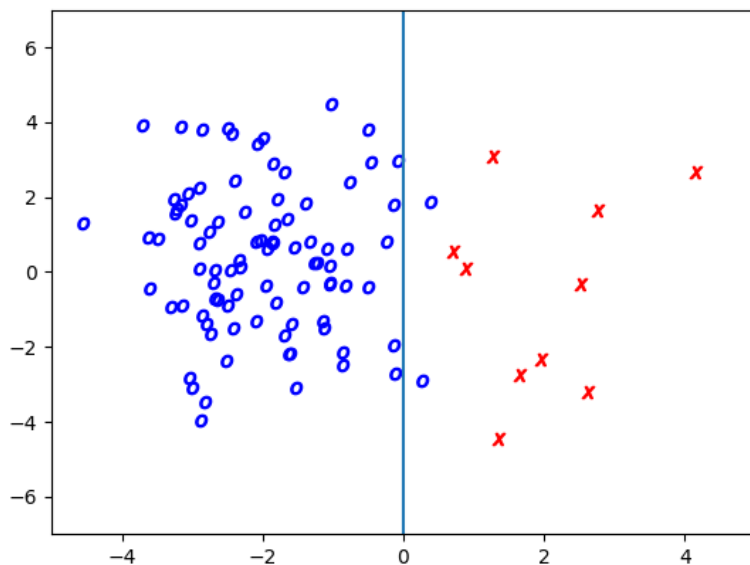


図 1: 重み付き，訓練データに対する結果

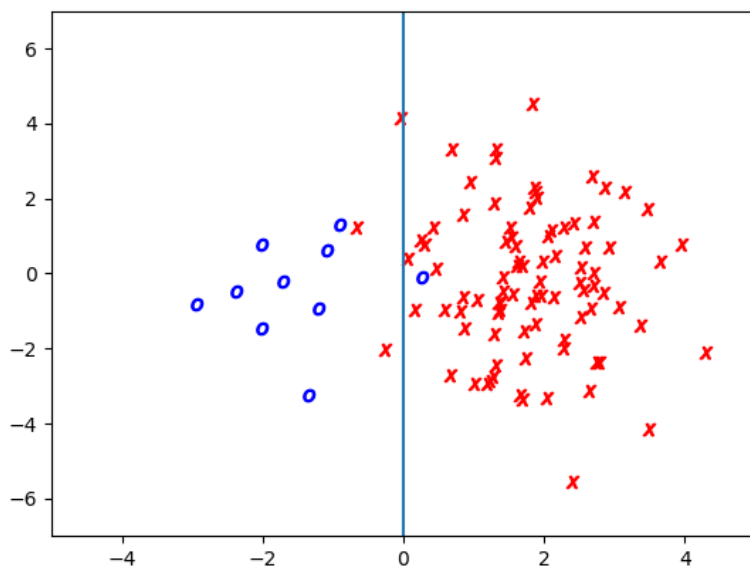


図 2: 重み付き，テストデータに対する結果

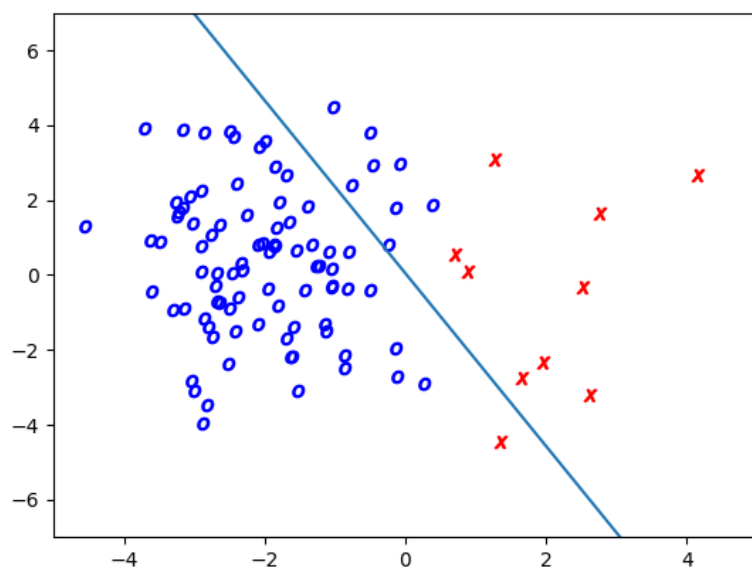


図 3: 重み付けなし, 訓練データに対する結果

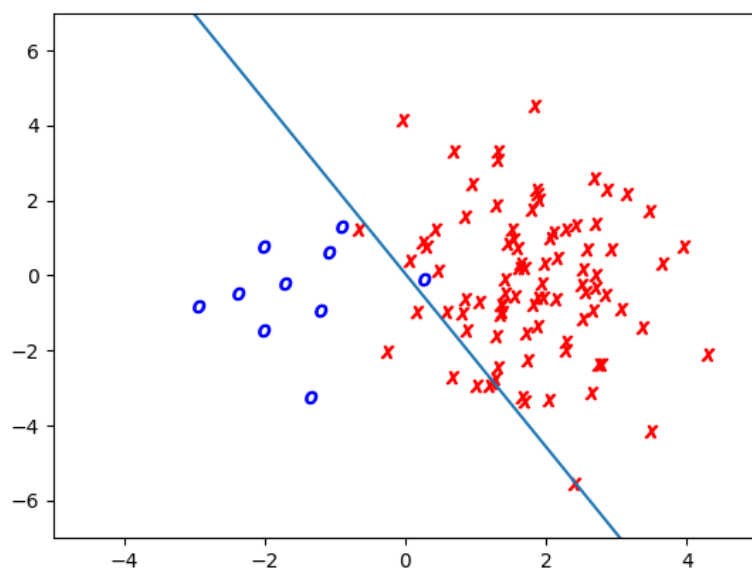


図 4: 重み付けなし, テストデータに対する結果